

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	AL152/SDGs演習2 (Seminar on SDGs 2)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	対話スキルと合意形成法		
担当者名 (Instructor)	村井 華代(MURAI HANAYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ART1823	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

#### 授業の目標(Course Objectives)

西洋の演劇・ドラマにおける「対立」と「対話」の概念と、それが現代の問題を克服するためにどのように応用されているかを理解し、他者理解のモデルとして獲得することを目的とする。

The aim of this course is to understand the concepts of "conflict" and "dialogue" in theater and drama in the West and how they are applied to overcome modern social problems, and to obtain them as models of understandings of others.

#### 授業の内容(Course Contents)

人はなぜ対立するのか、そしてそれをどう乗り越えればいいのか。

この授業では、「対立」と「対話」を本質的な契機とする欧米のドラマを題材に、ドラマの中で対立がどのように描かれてきたかを理解し、グループで朗読して演じながら新しい解決の発見を目指します。また、英語と日本語の様々なテキストの読解から、コミュニケーションと合意形成という私たちの課題に直結する「応用演劇」の基本的な理念を理解し、国家・民族紛争の問題にアプローチする国際的な演劇実践についても考えます。

Why do we have conflicts, and how do we overcome them?

In this course, we will use Western dramas that place 'conflict' and 'dialogue' as essential moments, in order to understand how conflicts have been represented in dramas, and how we can find a new solution through group drama-reading. By reading various texts written in English and Japanese, we will also try to understand the basic ideas of 'applied theatre' that relate directly to our subjects of communication and consensus-building and consider the international practice of theatre in approaching issues of national/ethnic conflicts.

#### 授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスと授業目的の共有、演劇と対立・他者理解・対話の関係について
2. ≪講義≫演劇が描いてきた対立 (1) ソボクレス『アンティゴネー』
3. ≪講義≫演劇が描いてきた対立 (2) イブセン『人形の家』
4. ≪講義≫演劇が描いてきた対立 (3) プレヒト『イエスマン・ノーマン』
5. ≪講義≫演劇が描いてきた対立 (4) レジナルド・ローズ『十二人の怒れる男』
6. 『アンティゴネー』抄訳とリーディング、ディスカッション
7. 『人形の家』抄訳とリーディング、ディスカッション
8. 『イエスマン・ノーマン』抄訳とリーディング、ディスカッション
9. 『十二人の怒れる男』抄訳とリーディング、ディスカッション
10. ≪講義≫アウグスト・ポアールと応用演劇の理念
11. ≪ワーク≫対立する二者とソリューション
12. ≪講義とワーク≫イスラエルの場合
13. ≪ワーク≫International Theatre Institute の活動と世界の実践
14. まとめとふりかえり

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

グループで担当すべき課題を割り振ります。例えば、戯曲の指定された部分を英語から訳して台本を作った上で、両者の対立はなぜ起こっているか、どうすれば別の道が探せるかを考えた上で、朗読劇の形で発表する準備をします。

#### 成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 授業への参加態度(30%) / 課題(20%) / リアクションコメント(20%)

#### テキスト(Textbooks)

1. ソボクレス、2014、『アンティゴネー』、岩波書店 (ISBN:978-4003570043)
2. ヘンリック・イブセン、2020、『人形の家 (近代古典劇翻訳<注釈付>シリーズ)』、論創社 (ISBN:978-4846019228)
3. ベルトルト・プレヒト、1999、『プレヒト戯曲全集 第6巻』、未来社 (ISBN:978-4624932763)

4. レジナルド・ローズ、1995、『十二人の怒れる男』、劇書房 (ISBN:978-4875745037)
  5. アウグスト・ボアール、1984、『被抑圧者の演劇』、晶文社 (ISBN:978-4794936813)
- テキストとしてWEBや文献の資料を独自に作成して配布します。上記の翻訳は併せて参照してください。

★使用WEB 資料

Drama Online HP: <https://www.dramaonlinelibrary.com/>

International Theatre Institute HP: <https://www.iti-worldwide.org/>

参考文献 (Readings)

1. Michael Rohd. 1998. *Theatre for Community, Conflict and Dialogue*. Heineman (ISBN:0-325-00002-6)
2. Anthony Jackson and Chris Vine. 2013. *Learning through Theatre (Third Edition)*. Routledge (ISBN:978-0-415-53071-2)
3. ヘレン・ニコルソン、2015、『応用ドラマ』、而立書房 (ISBN:978-4880593388)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

この科目は「英語に関連する科目」です。使用言語は英語ではありませんが英語のテキストやデータベースを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっています。使用する資料等については上記の「テキスト」「参考文献」の欄で確認してください。

注意事項 (Notice)